

2025 年度事業報告

I. 公益目的事業の実施状況

2025 年度事業概要

当財団は 1988 年 11 月 21 日に厚生大臣の認可を受け設立し、2011 年 3 月 28 日付、内閣府より設立の認可を受けて、設立登記日：2011 年 4 月 1 日、公益財団法人へ移行し、定款に定められた事業を開始した。2025 年 4 月 1 日より 2026 年 3 月 31 日までの 2025 年度の事業活動として、定款第 3 条の脂質代謝異常の分野に関する研究助成、褒章を行うほか各種事業を推進し、この分野の治療、研究の振興を図り、もって国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とした第 4 条の事業のうち、下記の事業を実施した。

2025 年度事業

2024 年 11 月 27 日に開催された第 43 回理事会において、2025 年度の事業が決定され、その事業計画に基づき次の通り実施された。

1. 研究助成事業・・・応募期間：2025 年 6 月 1 日～7 月 31 日

研究助成および研究奨励助成（2025 年 6 月 1 日時点で満 43 歳以下の研究者を対象）については、医学・生命科学系の研究機関 292 機関ならびに当財団の理事および評議員に推薦を依頼し、あわせて募集要項を当財団ホームページに掲載した。さらに広く募集を行うため、日本脂質生化学会ホームページへの掲載および同会員への一斉メール送付、日本動脈硬化学会メールマガジンでの案内を行うほか、JST 広報ポータル部サイエンスポータル、大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）、日本炎症・再生医学会、日本細胞生物学会、日本神経学会、日本生化学会、日本生理学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本免疫学会、日本薬学会、日本薬理学会のホームページにも掲載し、周知を図った。また、公益法人協会、日本循環器学会会告、日本分子生物学会会報の各機関誌においても募集情報を掲載し、候補者の受け付けを実施した。応募課題については、当財団選考委員 8 名による審査を経て選考委員会において候補者を選出し、その後、理事会の承認を得て助成対象者を決定した。2025 年 12 月 15 日ニュースリリースするとともに当財団ホームページに掲載した（助成者は 3-4 頁の通り）。

(1) 第 38 回研究助成 応募件数 87 件、助成件数 15 件、採択率 17.2%

(2) 第 34 回研究奨励助成 応募件数 77 件、助成件数 15 件、採択率 19.5%

研究助成・研究奨励助成の推移【過去 10 年間】

応募件数	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
研究助成	94	79	86	74	70	88	80	78	60	87
研究奨励助成	84	67	57	49	61	48	38	51	64	77
合計	178	146	143	123	131	136	118	129	124	164

助成件数	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
研究助成	12	12	12	12	12	12	15	15	16	15
研究奨励助成	16	16	16	16	16	16	15	16	16	15
合計	28	28	28	28	28	28	30	31	32	30

採択率	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
研究助成	12.8%	15.2%	14.0%	16.2%	17.1%	13.6%	18.8%	19.2%	26.7%	17.2%
研究奨励助成	19.0%	23.9%	28.1%	32.7%	26.2%	33.3%	39.5%	31.4%	25.0%	19.5%

2. 褒章事業(早石修記念賞)・・・推薦期間：2025年6月1日～8月31日

早石修記念賞については、当財団の指名する下記14学会および当財団理事、評議員、歴代受賞者に推薦を依頼した。

日本炎症・再生医学会、日本細胞生物学会、日本脂質生化学会、日本循環器学会、日本神経学会、日本神経精神薬理学会、日本生化学会、日本生理学会、日本糖尿病学会、日本動脈硬化学会、日本分子生物学会、日本免疫学会、日本薬学会、日本薬理学会

推薦書については、当財団の早石修記念賞選考委員(常任委員4名、外部委員2名、歴代受賞者2名)で審査した後、選考委員会で選出、理事会の承認を得て受賞者を決定した。

第9回早石修記念賞

《受賞者》

青木 淳賢 博士

《所属機関および役職》

東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室 教授

《受賞対象となった研究業績》

「生理活性リゾリン脂質の産生・作用メカニズムの解明と医療応用」

3. 第36回研究成果発表会および第8回早石修記念賞贈呈式・記念講演会

2025年6月14日、千里ライフサイエンスセンターにおいて、第36回(2023年度助成者)研究成果発表会および第8回早石修記念賞贈呈式・記念講演会を開催した。研究成果発表会では、研究助成者15名によるプレゼンテーションと、研究奨励助成者15名によるポスター発表を実施した。当初は2023年度研究奨励助成者16名全員の参加を予定していたが、1名が直前に欠席となった為、最終的に15名のポスター展示となった。欠席者については翌年の研究成果発表会で展示を行う予定である。また、当日は2024年度助成対象者の報告も併せて実施した。続いて、第8回早石修記念賞贈呈式を挙行し、その後、受賞者である筑波大学 医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科 教授 島野 仁 博士による記念講演会を行った。本会の案内は全国の医学・生命科学系研究機関にポスターを送付し、広く参加を募った。

場 所 千里ライフサイエンスセンター 5階サイエンスホール

日 時 2025年6月14日(土) 9時50分～18時00分

参加者 106名

4. 研究成果概要のデータベースへ登録

2023年度助成成果報告を助成財団センターの採択課題データベースを利用して、小野医学研究財団ホームページに公開した。

第 38 回（2025 年度）研究助成対象者 15 名

助成額：1 件につき 300 万円

（五十音順、敬称略、施設名・科名・役職は申請時）

氏 名	役 職	施 設 名 科 名	課 題 名
ア オキ ジュンケン 青木 淳賢	教授	東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室	リン脂質脂肪酸非対称性の分子機構とその生物学的意義の解明
オ オイシ トモカズ 大石 智一	主任研究員	公益財団法人 微生物化学研究会 微生物化学研究所 第1生物活性研究部	膜リン脂質リモデリングの破綻が引き起こす赤血球機能障害
オ オイシ ユ ミ コ 大石 由美子	教授	東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 病態代謝解析学	クッパー細胞のプラズマローゲンによる肝恒常性と MASH 病態制御機構の解明
キ ダ サトシ 喜田 聡	教授	東京大学大学院農学生命科学研究科	プロスタグランジンを中心とする海馬における恐怖記憶消去制御機構の分子基盤の解明
クワハラ トモキ 桑原 知樹	講師	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野	ホスホイノシチド代謝異常がもたらすパーキンソン病発症機構の解明
シノハラ キョウスケ 篠原 恭介	教授	東京農工大学大学院工学研究院 生命機能科学部門	哺乳類運動繊維膜の脂質組成とその生理的意義の解明
シ ホ ヤ ワタル 志 甫 谷 涉	准教授	慶應義塾大学 医学部 坂口光洋記念講座（シグナル探求学）	脂質代謝異常治療を志向した FFAR3 アロステリック調節薬の構造機能解析
スガナミ タカヨシ 菅波 孝祥	教授	名古屋大学環境医学研究所 分子代謝医学分野	脳肝連関による肝臓の免疫代謝制御に基づく MASH 病態の解明
タ キ マサヤス 多喜 正泰	教授	岐阜大学 糖鎖生命コア研究所	脂質代謝異常に起因する糖鎖修飾の再構築と腫瘍悪性化機構の解明
ナカムラ シュウヘイ 中村 修平	教授	奈良県立医科大学 生化学講座	リソソーム-ペルオキシソーム間脂質輸送を介したリソソーム膜修復機構と細胞老化における役割の解明
ヒラバヤシ テツヤ 平林 哲也	主席研究員	公益財団法人 東京都医学総合研究所 先端基礎医科学研究分野	鉄代謝異常を伴う神経変性疾患におけるリン脂質分解の役割
ミ ハラダ ケンイチ 三原田 賢一	特別招聘教授	熊本大学国際先端医学研究機構 幹細胞プロテオスタシス学講座	脂質代謝異常に起因する貧血誘導機構の解明と治療法の開発
ヤスダ ダイスケ 安田 大恭	講師	秋田大学 大学院医学系研究科 生体防御学講座	生理活性リゾリン脂質が制御するリンパ管関連病態の解明と治療薬開発へ向けた分子基盤の構築
ヤナギダ ケイスケ 柳田 圭介	講座担当教授	東京慈恵会医科大学 分子生物学講座	リゾリン脂質が制御する脳血管内皮ケトン供給転写プログラム
ヤマダ ケンイチ 山田 健一	主幹教授	九州大学大学院薬学研究院 分子病態解析学分野	細胞膜リン脂質の膜非対称性と酸化障害

第 34 回 (2025 年度) 研究奨励助成対象者 15 名

助成額 : 1 件につき 150 万円 (五十音順、敬称略、施設名・科名・役職は申請時)

氏 名	役 職	施 設 名 科 名	課 題 名
アライ ヨウヘイ 新井 洋平	特任助教	東京科学大学病院 血液浄化療法部	後天性 Y 染色体喪失 (mLOY) から紐解く動脈硬化症の新規治療戦略
オオミ ジュンペイ 近江 純平	特任助教	東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室	先天性希少疾患 Lenz-Majewski 症候群の未知病態とその発症機構の解明
オノ タカシ 小野 喬	助教	東京大学医学部附属病院 眼科・視覚矯正科	網膜におけるリン脂質リサイクル機構の解明と網膜色素変性の治療法開発
オノデラ トシハル 小野寺 俊晴	寄付講座 助教	大阪大学大学院医学系研究科 肥満脂肪病態学寄附講座	脂肪組織における生理的/病的線維形成機構と脂質代謝制御に関する革新的研究
カサシマ ヒロアキ 笠島 裕明	講師	大阪公立大学大学院 消化器外科	CAF の代謝ダイナミクスを鍵とする難治性大腸がんへの新規治療アプローチ
クチツ ヨシヒコ 朽津 芳彦	助教	東北大学 大学院 生命科学研究科 細胞小器官疾患学	リソソーム脂質蓄積が引き起こす STING ミクロオートファジー分解異常
テラオ リョウ 寺尾 亮	助教	東京大学医学部 眼科学教室	脂肪萎縮症の眼合併症に対する治療法探索検討
トミツカ ユウキ 富塚 祐希	助教	昭和医科大学大学院薬学研究科 衛生薬学分野	長鎖アシル CoA 合成酵素 4 を介した脂質代謝が特発性肺線維症の発症に及ぼす影響の解析
フジワラ ヒデアキ 藤原 英晃	講師	岡山大学 学術研究院 医療開発領域 血液・腫瘍内科	骨髄移植後ミトコンドリア機能不全と脂質酸化関連細胞死の病態制御の解明
ミキ タカフミ 三木 崇史	教授	秋田大学大学院医学系研究科 細胞生理学講座	シナプス前部における液相分離と脂質ドメインのクロストークによる神経伝達制御機構の解明
ミシマ エイカン 三島 英換	学術研究員	東北大学大学院医学系研究科 レドックス分子医学分野	GPX4 合成系を標的としたがん細胞のフェロトシス誘導薬の開発
ミヤゲ マサト 三宅 雅人	准教授	徳島大学先端酵素学研究所 生体機能学分野	ストレス応答による肝ゾネーション制御を介した代謝機能障害関連脂肪肝の進行機構
モリモト サトル 森本 悟	Deputy Director	慶應義塾大学再生医療リサーチセンター	筋萎縮性側索硬化症の中枢神経系におけるコレステロール代謝と創薬研究
ヤマギシ リョウタ 山岸 良多	講師	大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学	脂肪肝モデルにおける LESC fenestrae 修復機構の解析と治療応用
ワタナベ ヤスノリ 渡邊 康紀	准教授	山形大学理学部理学科	新規オルガネラ間リン脂質輸送タンパク質 Sfh4 の輸送方向決定メカニズムの構造基盤

《受賞者》

青木 淳賢（あおき じゅんけん）博士

東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室 教授

《受賞対象となった研究業績》

「生理活性リゾリン脂質の産生・作用メカニズムの解明と医療応用」

青木博士は、生理活性脂質「リゾリン脂質」に着目し、その受容体および産生酵素の世界初の同定、ならびに生理・病態機能の解明を通じて、「リゾリン脂質メディエーター」という新たな研究分野の確立に大きく貢献した。LPA や LysoPS などのリゾリン脂質が情報伝達分子として働くことを明らかにし、LPA 受容体 (LPA3/EDG7 等) や LysoPS 受容体、LPA 産生酵素 (オートタキシン ATX、PA-PLA1 α)、LysoPS 産生酵素 (PS-PLA1) を世界に先駆けて同定している。また、これらの分子のノックアウトマウスを用いた解析により、LPA-受容体経路が発生、血管形成、毛根形成、免疫制御など多様な生理・病態機能に関与することを解明された。さらに、LPA6 受容体や ATX の立体構造解析を通じて、リガンド結合様式を原子レベルで明らかにし、創薬や脂質受容体標的薬の開発に道を拓いた。独自開発した GPCR 活性化測定法「TGF β 切断アッセイ」により LysoPS 受容体の同定に成功するとともに、この方法は Orphan GPCR のリガンド解明にも大きく貢献した。さらに、リゾリン脂質や産生酵素を疾患バイオマーカーとして応用し、ATX が肝線維化の診断マーカーとして実用化されるなど、基礎から臨床応用まで幅広い波及効果をもたらした。

これらの業績は生命科学・医学分野に大きく貢献するものであり、早石修記念賞受賞にふさわしいと考えられる。

《略歴》

昭和62年	東京大学薬学部卒業
平成元年	東京大学大学院薬学系研究科修士課程修了（井上圭三教授）
平成 4年	東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了（井上圭三教授）
平成 4～ 7年	東京都臨床医学総合研究所研究員（野本明夫部長）
同 7～12年	東京大学大学院薬学系研究科助手（井上圭三教授）
同12～19年	東京大学大学院薬学系研究科助教授（新井洋由教授）
同17～20年	JSTさきがけ研究員
同19～令和 2年	東北大学大学院薬学研究科教授
令和元～ 2年	東北大学研究教授
令和 2年～	東京大学大学院薬学系研究科教授
平成26～30年	AMED-CREST 研究開発代表者
平成30～令和 4年	AMED-LEAP 研究開発代表者

II. 運営体制の整備とガバナンス・透明性・公正性の確保に向けた取り組み

1. 外部専門家の積極的な活用による業務執行の実効性および透明性の確保

- ・研究助成の選考については、利害関係のない脂質代謝領域の学識経験者 8 名を選考委員とし、1 期 2 年の任期で最大 2 期までの交代制を導入することで、公正かつ透明性の高い選考を実施している（今年度は 8 名中新たに 3 名の入れ替えを行った）。また、利益相反の観点から、選考委員が応募者の共同研究者等である場合は、当該案件の審査には関与しない体制を整え、公正性確保に努めている。
- ・褒章事業の選考については、脂質研究に見識の高い財団理事・評議員で構成される常任選考委員（任期 2 年）に加え、原則として当財団の過去の助成対象者（研究助成・研究奨励助成）から選出された利害関係のない学識経験者 2 名を外部選考委員（任期 2 年）として加え、選考過程の透明性と公正性を高めている。
- ・資産の安全かつ効率的な運用を図るため、重要事項について審議し、必要に応じて代表理事および業務執行理事等に適切な助言を行うことを目的として、資産管理運用委員会を設置している。委員会は、理事・監事の中から互選された 3 名と、利害関係のない外部弁護士 1 名（いずれも任期 2 年）で構成され、少なくとも事業年度ごとに 1 回、翌年度の事業計画書・収支予算書を承認する理事会の前までに提案事項の審議を行うなど、ガバナンスの強化に努めている。

2. 不祥事の予防・発見・事後対応の仕組みの強化

- ・現金および預金の出納については、会計処理規則に則り、事務局長と会計担当事務局員によるダブルチェック体制で、現金残高を出納帳と照合している。また、事務局長は毎月末に預貯金残高と帳簿残高を照合し、その結果を業務執行理事に報告している。更に、毎事業年度に少なくとも 2 回、外部税理士による会計帳簿の確認を実施することで、内部統制の強化と透明性の確保に努めている。

3. 理事および事務局員から監事への報告体制の整備

- ・監事に対しては、四半期ごとに 1 回、会計帳簿、伝票、証憑書類について書面で現状報告を行い、必要に応じて指導を仰ぎ、適正かつ透明性の高い運営に努めている。

4. 情報公開・説明責任への取り組み

- ・公益事業の活動報告や財務情報については、特に公益事業の進捗や成果、イベント開催状況、助成事業の選考結果など、社会への説明責任を果たすべき情報として、ホームページを通じて随時発信しており、今年度はこれら情報発信の為のホームページ更新を 7 回実施した。これにより、法人運営の透明性を一層高め、社会からの信頼確保に努めている。

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。